

令和5年度 自己評価・学校関係者報告書

令和6年5月31日
御幸幼稚園・さくらんぼ保育園

1. 本年度の教育目標

【御幸幼稚園】

- (1) 豊かな人間性の基礎作りをする。
- (2) 表現力のある個性豊かな思いやりの心を育てる。
- (3) 物事に敏感に反応し、節度ある態度や姿勢を育てる。
- (4) 意欲を高め自己発揮できるようにする。
- (5) 未来社会を生きる広い国際感覚を養う。
- (6) 家庭との連携のもと、保育・教育を進める。

【さくらんぼ保育園】

- (1) 子ども一人ひとりのありのままの姿を受け止め、乳児期に生きる力の基礎を育む。
- (2) 安全に留意し、家庭的な雰囲気大切に作る。
- (3) 保育園・家庭・地域が協力して、健全な子どもの育ちを保障する。
- (4) 素直でのびのびとした創造性や情操の豊かな子どもを育てる。
- (5) きまりを守り、物を大切に正しい生活習慣を身に付けた子どもを育てる。

2. 取り組む目標・計画

- | | |
|----------|-----------|
| ○教育課程の改善 | ○教育環境の可視化 |
| ○教員の資質向上 | ○健康と安全 |

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組みの状況
教育課程の改善	B	幼保連携型認定子ども園教育・保育要領を踏まえ、教育目標、乳幼児の発達や生活の連続性を考慮し、年間計画、月案、週案、日案、個別の指導計画を立案し行っている。職員相互の話し合いを通じ、子どもの姿や保育内容を捉え直しながら、目指す方向性を明確化し、保育の改善・充実に努めている。
教育環境の可視化	B	乳幼児が興味や関心を抱き、好奇心や探求心が呼び起こされるように環境を整え、子どもの心身の発達に必要な様々な体験ができるように努めている。そのために自然環境、遊具、素材や用具等を整え、コーナー遊びを設定している。近隣の公園やみかん狩り、芋ほり、深北緑地公園、キッズプラザ・キッズニア等の施設に出か

		<p>け、各学年にふさわしい様々な体験を積み重ねている。</p> <p>「教育の質」を客観的に図る物差しとして開発された保育環境評価スケール（ECERS）の研究・研修を深め、遊びと学びのための環境構成を総合的に可視化し、園児一人ひとりが周囲の様々な環境に働きかけ、興味や関心をもって関われるように改善している。</p> <p>自園方式による完全給食を実施するにあたり、給食委託業者との打ち合わせを定期的に行い、より質の良い給食の提供、野菜の栽培、クッキング活動等の食育に努めている。服育の観点から制服の着脱練習を取り入れ、子どもの能力開発に努めている。</p>
教員の質的向上	A	<p>子どもたちの姿、心身の発達、ねらいに応じた保育内容、行事について、学年会、リーダー会、職員会議、日々の終礼などで計画立案し、共通理解を深めながら教育・保育を進めている。日々の保育内容や子どもの様子、行事の写真やエピソード等を通して保護者に理解を求めるとともに、自らの保育内容を振り返り、充実した保育に努めている。大学の講師を定期的に招聘し、発想力、イメージ力、創造力を高める保育につながる具体的な方法や個々の園児の発達の姿、課題について研修を実施し、理解を深めた。</p> <p>積極的に園外の研究会、公開保育に教員を派遣するとともに、自園でも公開保育を行った。保育環境評価スケール（ECERS）については定期的に専門講師を招聘し研修、実践発表、公開保育を実施し保育の質を高めることができた。</p> <p>「0～6歳のかがくするところの芽生え（かがく遊びのカリキュラム構築）」をテーマに研究に取り組み、その実践内容を保育雑誌（月刊「ひろば」）に連載した内容を書籍化することで、広く発信し、海外からの視察の受け入れも実現した。</p>
健康と安全	A	<p>「子どもを尊重する保育」のため「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を基に望ましい保育の在り方について研修を深めた。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、通常の保育に戻りつつあるが、感染症への対策は引き続き実施している。</p> <p>園児の安全を守り、楽しく生活できるように、施設、設備、遊具等の安全点検を常に行い、園児に危険防止の言葉かけをする等の安全教育を行っている。重大な事故につながる可能性がある事例の場合には、詳細を報告書にまとめ、全教職員が一丸となって事故防止に努めている。</p> <p>ケガや事故、病気が発生した場合は、園長への報告、看護師への連絡を行うとともに、速やかに保護者に連絡をとり、医療機関を受診する等、適切な処置を行っている。ケガや事故の原因を明らかにし、情報を共有することで、改善点を出し合い、安全・衛生意識の向上に努めている。</p>

	<p>交通安全については地元警察と連携し、交通安全指導等を定期的に行うようにしている。</p> <p>年間の災害・防火訓練実施計画をもとに様々な災害を想定した避難訓練を行い、子どもたちに命を守ることの大切さや防火意識を高める指導している。</p>
--	---

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、引き続き感染防止に努め、日々の保育活動や様々な行事を工夫しながら子どもたちの学び、心身の健やかな育成に努めてきた。</p> <p>子どもの遊びの環境に関しては、年齢、発達、興味や関心に合わせた物的環境を工夫し、探求できるコーナーや教材を充実させたことで、子どもたちの育ちが見られた。幼児教育を行う上で共有すべき事項である「育みたい資質・能力」（「知識及び技能の基礎」、「思考力・判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力」）及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を全体の計画の中に盛り込み、取り組みを進めてきた。</p> <p>継続的に「思考力の芽生え」をねらいとした「かがく遊び」に取り組み、乳児期から幼児期へ、さらに小学校の低学年への接続を念頭に置いたカリキュラム構成を考えて推進し、保育雑誌、書籍を通して広く発信することができた。</p> <p>積極的に園内研修、園外研修、公開保育に参加し、自らも実践発表や公開保育を行い、保育の質の向上に努めてきた。</p> <p>大学の講師を定期的に招聘し、研究成果を学ぶことで、自らの保育内容を振り返り、適切なアドバイスを受け、保育の質を高めることができた。</p>

評価（A：十分成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった）

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
教育環境の可視化	<p>子どもたちが落ち着いて過ごせるよう屋内外の環境を子どもたちの発達や状況に応じて整えていきたい。子どもたちが興味や関心をもって主体的に関われる環境を構成し、遊びに必要な物的環境の充実を図り、遊びコーナーを創意工夫して充実させたい。保育環境と保育実践の質を客観的にとらえることができる保育環境評価スケール（ECERS）の研究、研修を深め、乳幼児一人ひとりが周囲の環境に働きかけ、興味や関心を持って関わられるような環境の改善に努めたい。</p>
教員の資質向上	<p>一人ひとりの発達の特性を理解し、個別の対応や集団での活動などに沿って計画的に環境を構成するとともに、カリキュラムを作成し、保育活動をより豊かなものにしていきたい。子どもたち自らが、今まで経験してきたことに自信を持つことで、自己肯定感を高め、小学校生活に対して期待を持つことができるよう、育てたい能力や資質としての「3つの柱」や自</p>

	立心、協同性、思考力の芽生えなど「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)をもとに乳幼児の保育の充実を図っていききたい。研修・研究については自分なりの課題や視点を持って、積極的に園内外の研究会、研修会、公開保育等に参加し、専門的知識や技術等学んだことを教員全体で共有し、指導力の向上に努めていきたい。
--	--

6. 学校関係者評価委員会の評価

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもも日々楽しんでおり、安心して通わせることができています。 ・コロナ禍の中でも工夫された教育方法の下、子どもたちは色々な事を吸収し成長している。 ・先生達は本当によく子どもたちを見ていて、会う度に声をかけ、話しやすい関係を築けた。 ・男性の先生が多いところも魅力だと感じる。家庭でも幼稚園での出来事をよく話しているので、子どもも楽しんでいることが伝わってくる。 ・アレルギーがあったので当初は不安もあったが、工夫して給食を楽しむことができた。 ・入園前は食ベムラや好き嫌いも多かったが、園での食育を通して完食できるようになり、家庭でも食育を取り入れるよう意識するようになった。 ・日常的に英語が飛び交うようになったり、数字やひらがななど、いつの間にか分かるようになっていくと気付くことも多く、教育活動に力を入れていることを強く感じる。 ・園生活を通して子どもが口ずさむ歌や工作の掲示物などで季節を感じる事ができた。 ・園で様々な経験を積むことができたので、子どもの発達に繋がったように感じる。 ・公開保育で子どもの姿を直接見ることができてよかった。様々に工夫された「かがくあそび」で子どもたちが色々考えて取り組んでいる姿に感心した。 ・「かがくあそび」で、自分の興味や関心のある遊びを生き生きと楽しそうにやっており、子どもの好奇心や科学的な思考の醸成に役立っている。 ・「園だより」や「クラスだより」、活動の様子がわかる動画や写真、個人懇談や日常的な連絡等のコミュニケーションを通して子どもの育ちが共有され、保育内容や教育方針への理解が深まった。

【学識経験者による評価】

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちに必要環境のデザインを、リソースを工夫しながら、柔軟に、タイミングよく構成し、その取り組みを振り返るサイクルが定期的な園内研修等を通して定着しつつある。 ・自己評価に終わらず、第三者的な視点から保育・教育の取り組みを振り返る機会として、学外の有識者などとの連携を意欲的に行なっている。 ・園内の実践研究が継続され、外部資金獲得をはじめ、保育関連誌への保育実践の連載などの実績につながっている。

※財務状況

公認会計士により、適正に運営されていると認められている。
